

平成27年度第1回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満20歳以上の男女個人 ◆標本数 3,000 標本 ◆標本抽出 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法 郵送法 ◆調査期間 平成27年7月17日（金）～8月7日（金） ◆有効回収数 1,331 ◆有効回収率 44.4%
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 1 地球温暖化対策について 2 川崎市の緑の満足度について 	<ul style="list-style-type: none"> 3 現在のお住まい周辺の住環境などについて 4 市民の防災意識について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数（人）	構成比（%）
1 男性	565	42.4
2 女性	747	56.1
（無回答）	19	1.4
合計	1,331	100.0

2 居住区別

	基数（人）	構成比（%）
1 川崎区	168	12.6
2 幸区	152	11.4
3 中原区	219	16.5
4 高津区	191	14.4
5 宮前区	209	15.7
6 多摩区	176	13.2
7 麻生区	178	13.4
（無回答）	38	2.9
合計	1,331	100.0

3 性／年代別

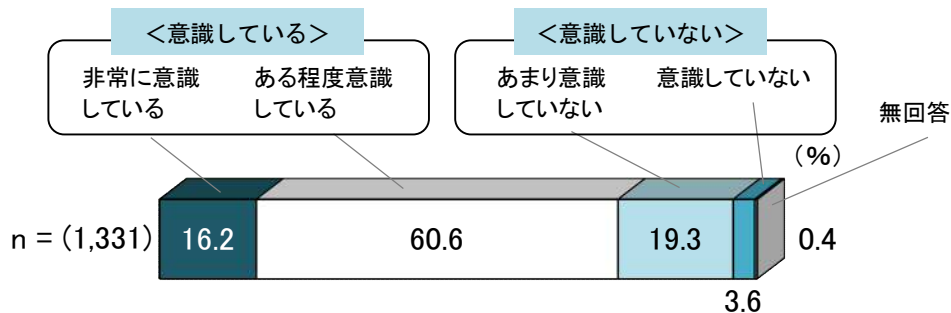
	全体		男性		女性		無回答	
	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）	基数（人）	構成比（%）
1 20歳代	106	8.0	52	9.2	54	7.2	-	-
2 30歳代	241	18.1	91	16.1	150	20.1	-	-
3 40歳代	264	19.8	99	17.5	165	22.1	-	-
4 50歳代	224	16.8	101	17.9	123	16.5	-	-
5 60歳代	269	20.2	122	21.6	146	19.5	1	5.3
6 70歳以上	209	15.7	100	17.7	108	14.5	1	5.3
（無回答）	18	1.4	-	-	1	0.1	17	89.5
合計	1,331	100.0	565	100.0	747	100.0	19	100.0

1 地球温暖化対策について

1 地球温暖化対策の意識

地球温暖化対策の意識について聞いた。「非常に意識している」(16.2%)と「ある程度意識している」(60.6%)を合わせた<意識している>(76.8%)が7割を超えている。

図1

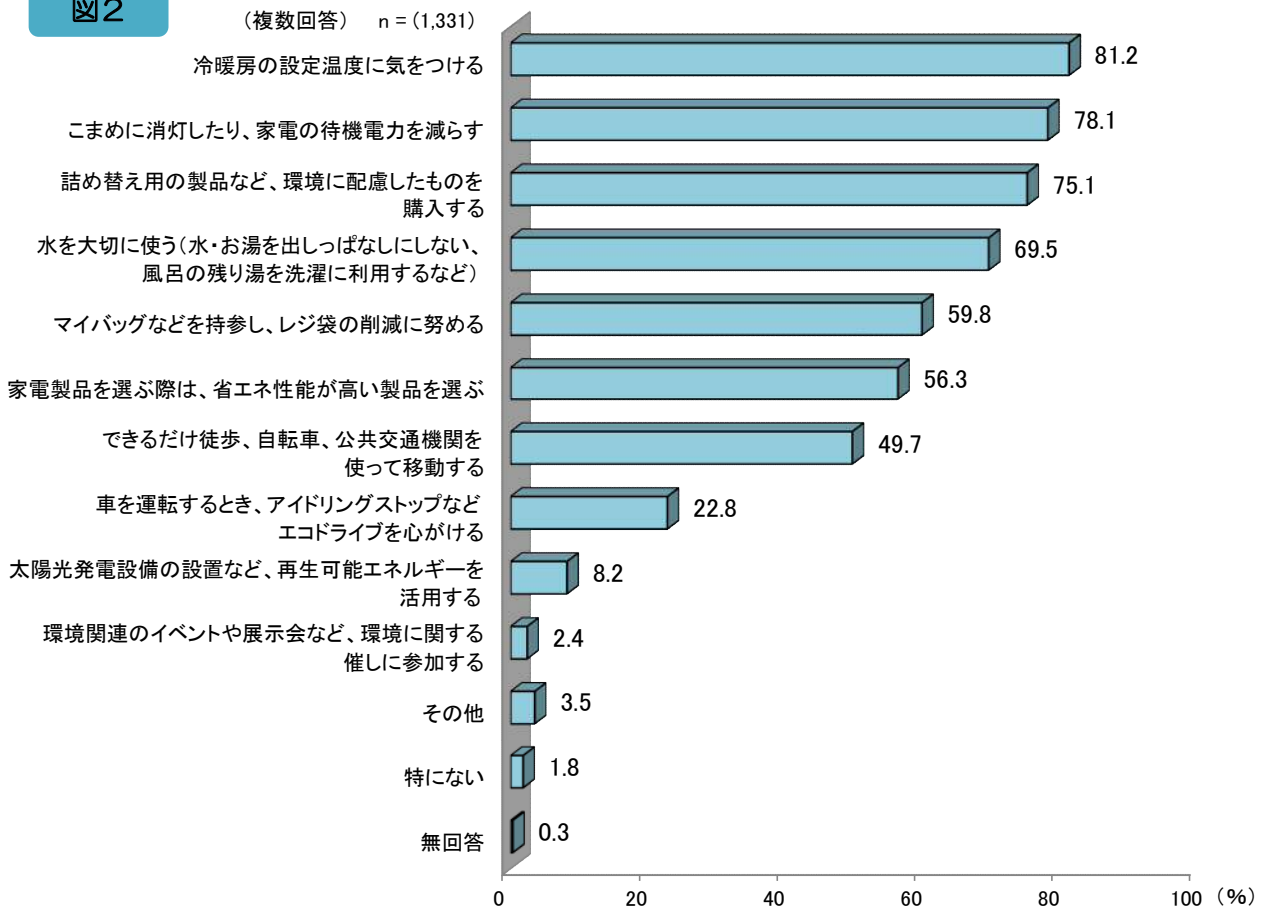


2 個人や家庭で行っている、または今後行いたいと思っている地球温暖化対策

個人や家庭でできる地球温暖化対策として、現在どのようなことを行っているか、または今後どのようなことを行いたいと思っているかを聞いた。「冷暖房の設定温度に気をつける」(81.2%)が8割を超えて最も高く、次いで「こまめに消灯したり、家電の待機電力を減らす」(78.1%)、「詰め替え用の製品など、環境に配慮したものを購入する」(75.1%)がともに7割を超えている。

図2

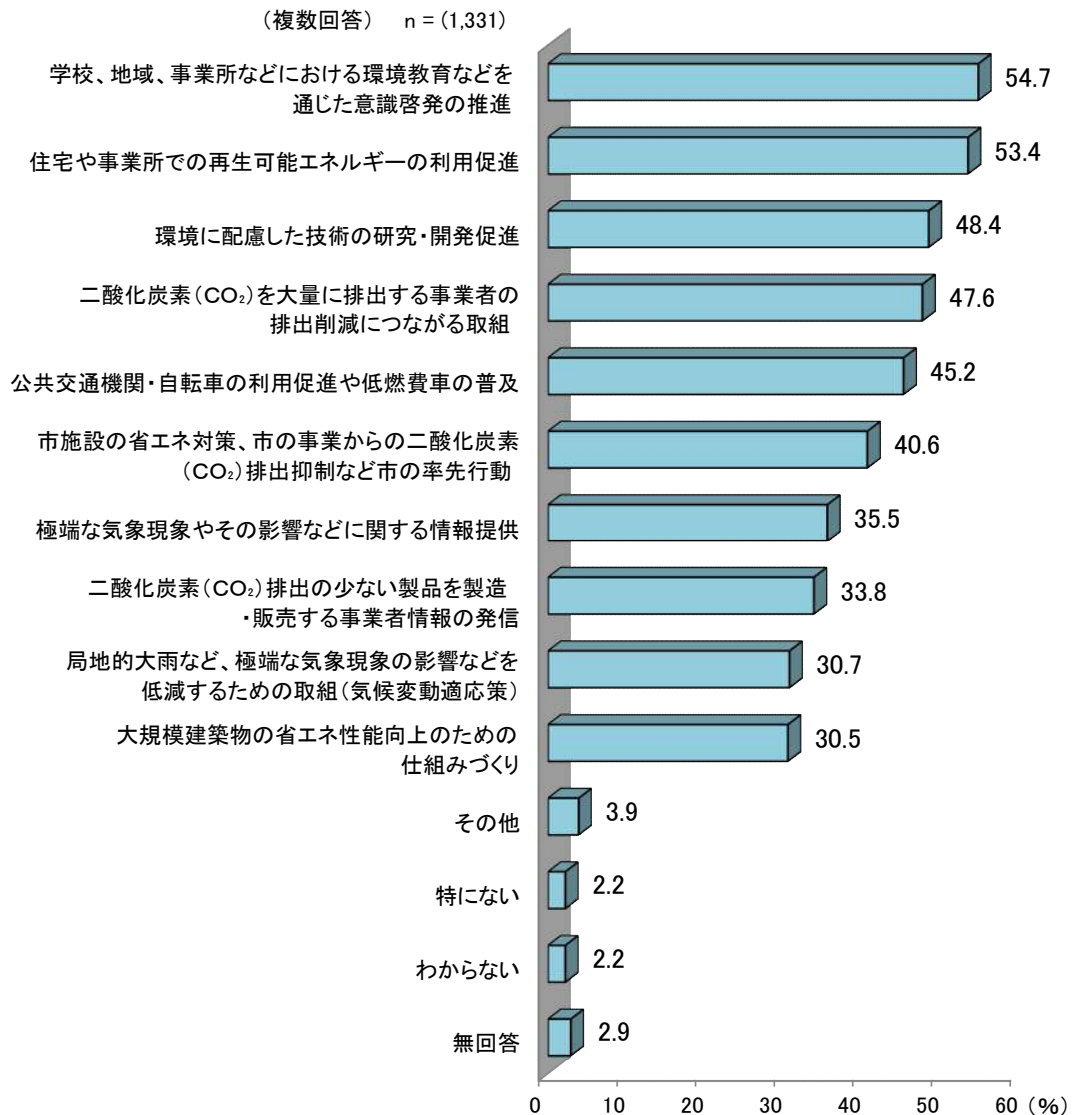
(複数回答) n = (1,331)



3 川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策

今後、川崎市に取り組んでほしい地球温暖化対策について聞いた。「学校、地域、事業所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進」(54.7%)と「住宅や事業所での再生可能エネルギーの利用促進」(53.4%)がともに5割以上と高くなっている。また、「環境に配慮した技術の研究・開発促進」(48.4%)と「二酸化炭素(CO₂)を大量に排出する事業者の排出削減につながる取組」(47.6%)が約5割と高くなっている。

図3

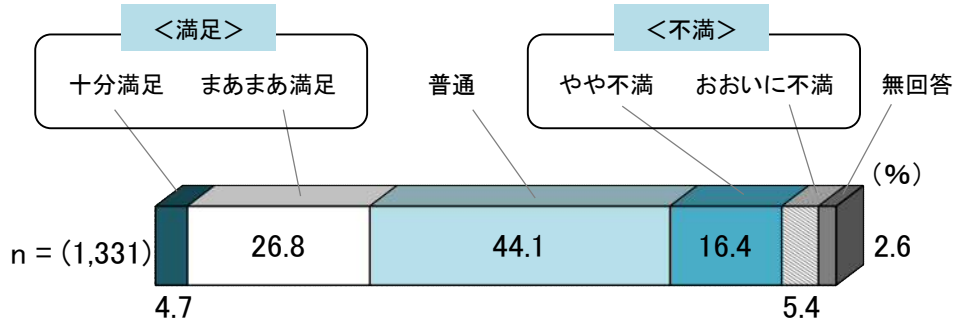


2 川崎市の緑の満足度について

1 市域全体の緑についての満足度

市域全体の緑に満足しているか聞いた。「十分満足」(4.7%)と「まあまあ満足」(26.8%)を合わせた<満足>(31.5%)は約3割、「やや不満」(16.4%)と「おおいに不満」(5.4%)を合わせた<不満>(21.8%)は約2割となっている。

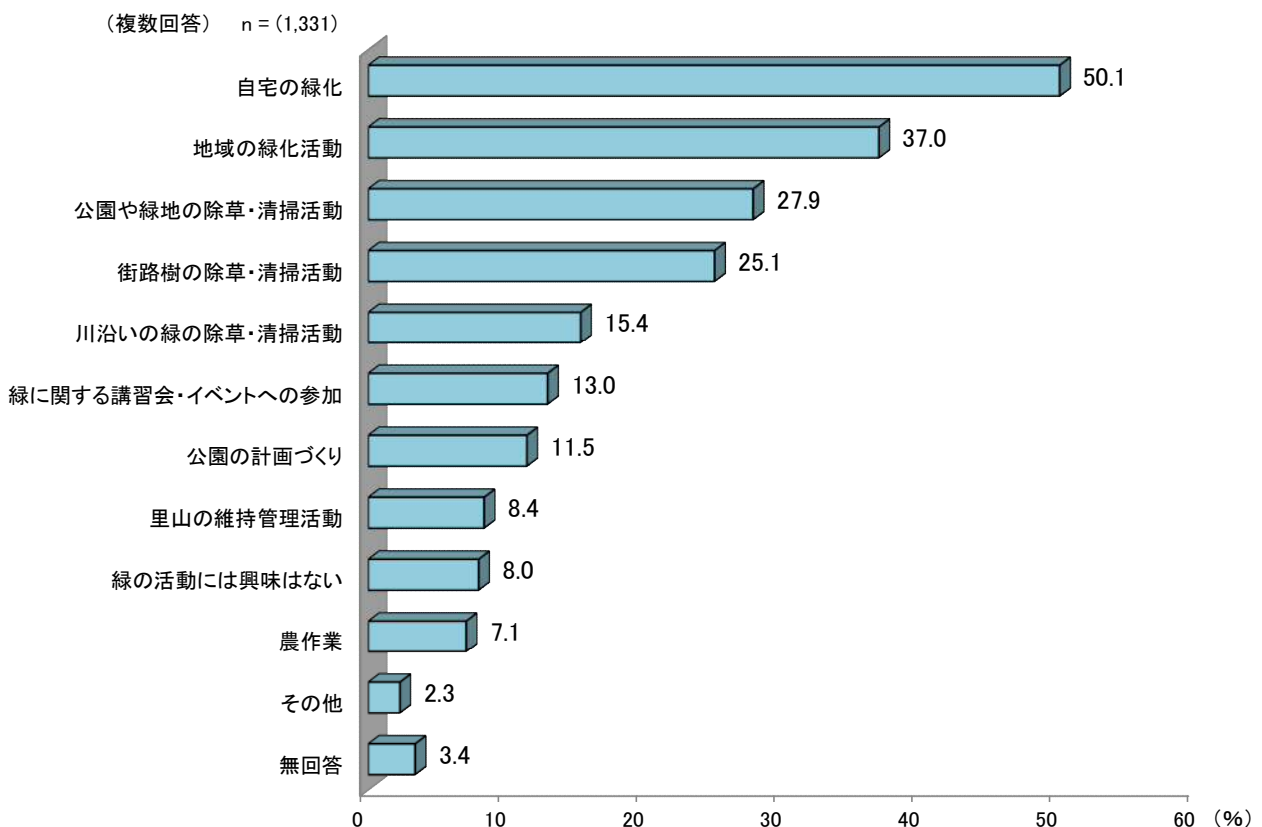
図4



2 川崎市の緑について取り組むことができる活動

今後、緑について取り組むことができる活動について聞いた。「自宅の緑化」(50.1%)が5割と最も高くなっており、次いで「地域の緑化活動」(37.0%)、「公園や緑地の除草・清掃活動」(27.9%)、「街路樹の除草・清掃活動」(25.1%)となっている。

図5

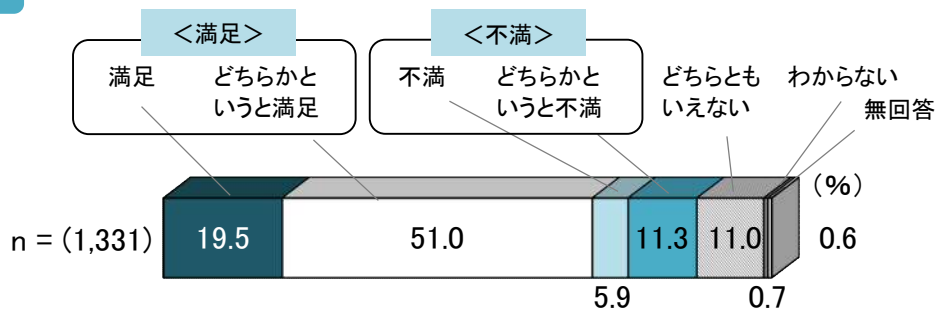


3 現在のお住まい周辺の住環境などについて

1 お住まい周辺の住環境の満足度

現在のお住まい周辺の住環境について満足しているか聞いた。「満足」(19.5%)と「どちらかという満足」(51.0%)を合わせた<満足>(70.5%)は7割となっており、一方「不満」(5.9%)と「どちらかという不満」(11.3%)を合わせた<不満>(17.2%)が2割未満となっている。

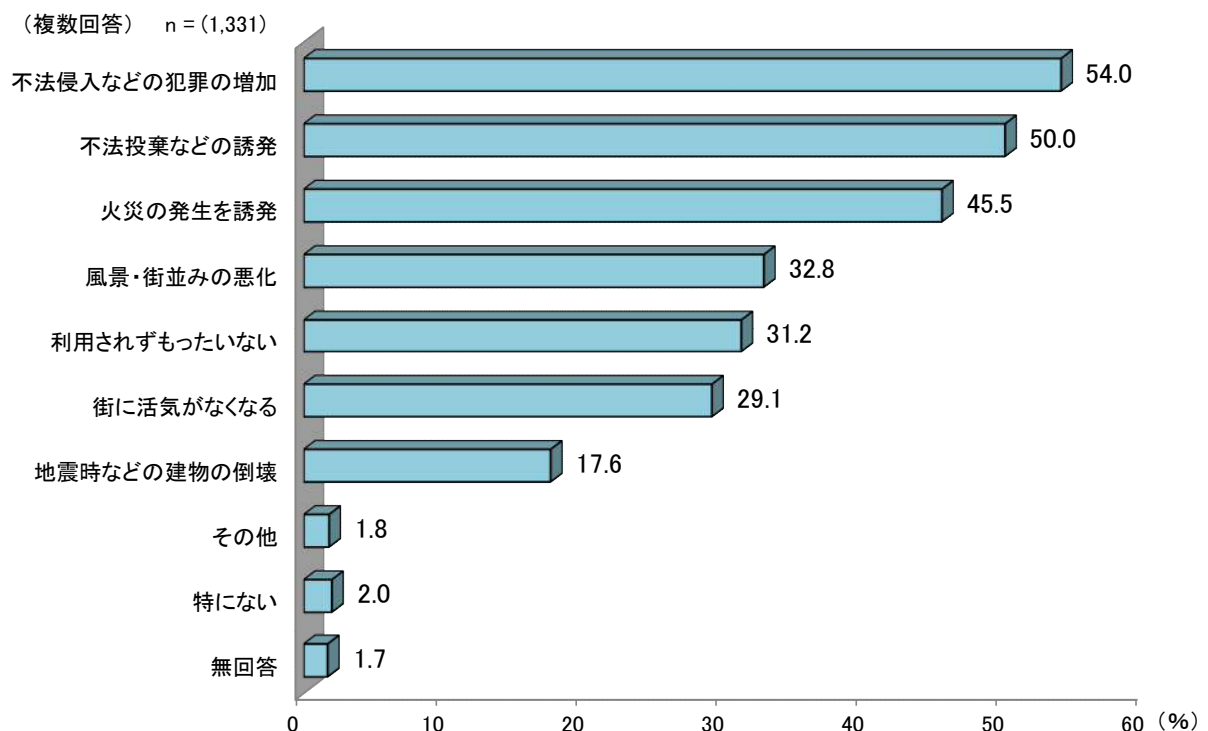
図6



2 空き家の存在により生じる問題

空き家の存在によりどのような問題が生じるかを聞いた。「不法侵入などの犯罪の増加」(54.0%)が5割を割え最も高く、次いで「不法投棄などの誘発」(50.0%)が5割、「火災の発生を誘発」(45.5%)の順となっている。一方、「風景・街並みの悪化」(32.8%)と「街に活気がなくなる」(29.1%)は約3割となっている。

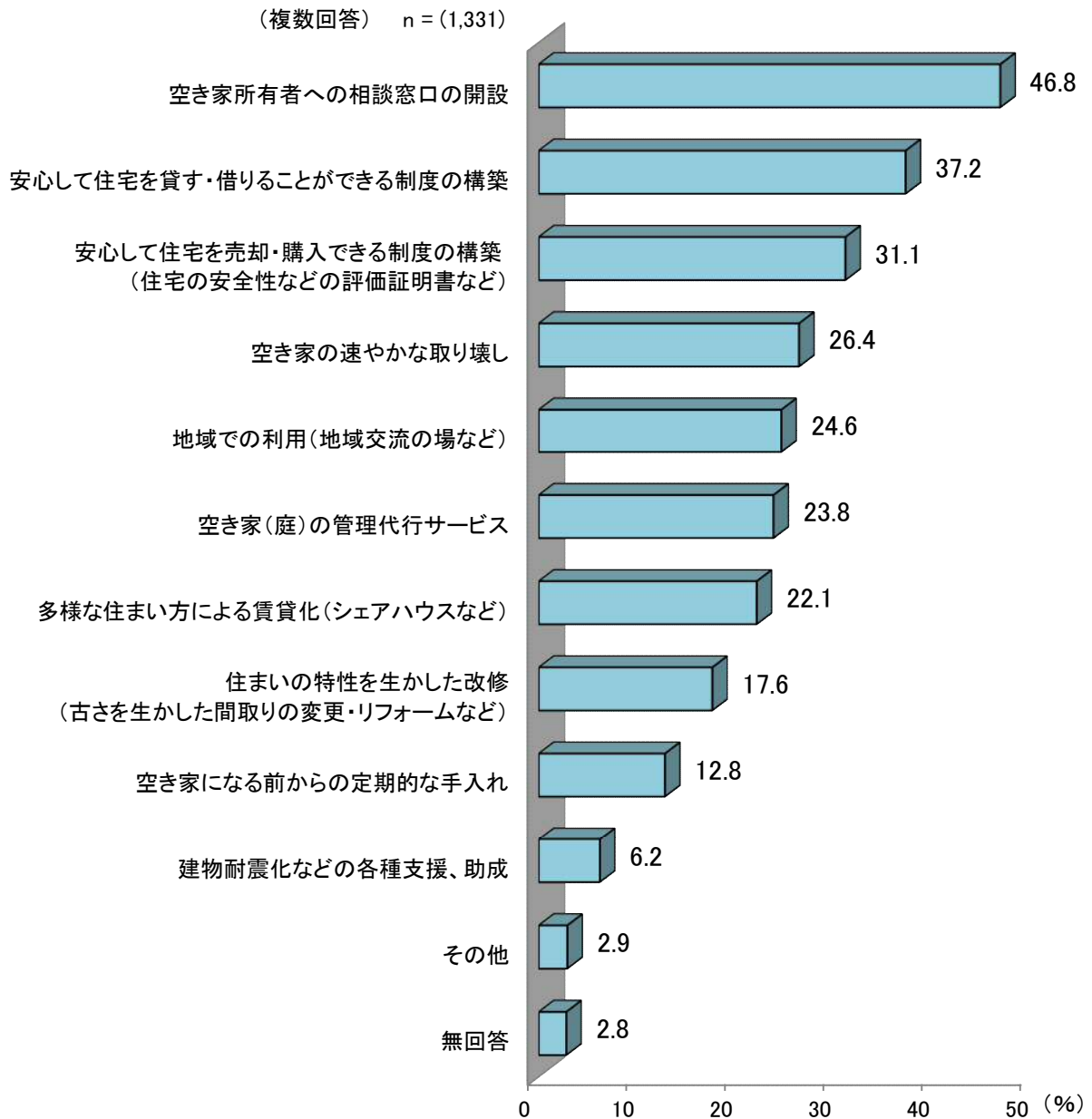
図7



3 空き家対策に必要なこと

空き家対策として、どのようなことが必要だと思うか聞いた。「空き家所有者への相談窓口の開設」(46.8%)が最も高く、次いで「安心して住宅を貸す・借りることができる制度の構築」(37.2%)、「安心して住宅を売却・購入できる制度の構築(住宅の安全性などの評価証明書など)」(31.1%)となっている。

図8

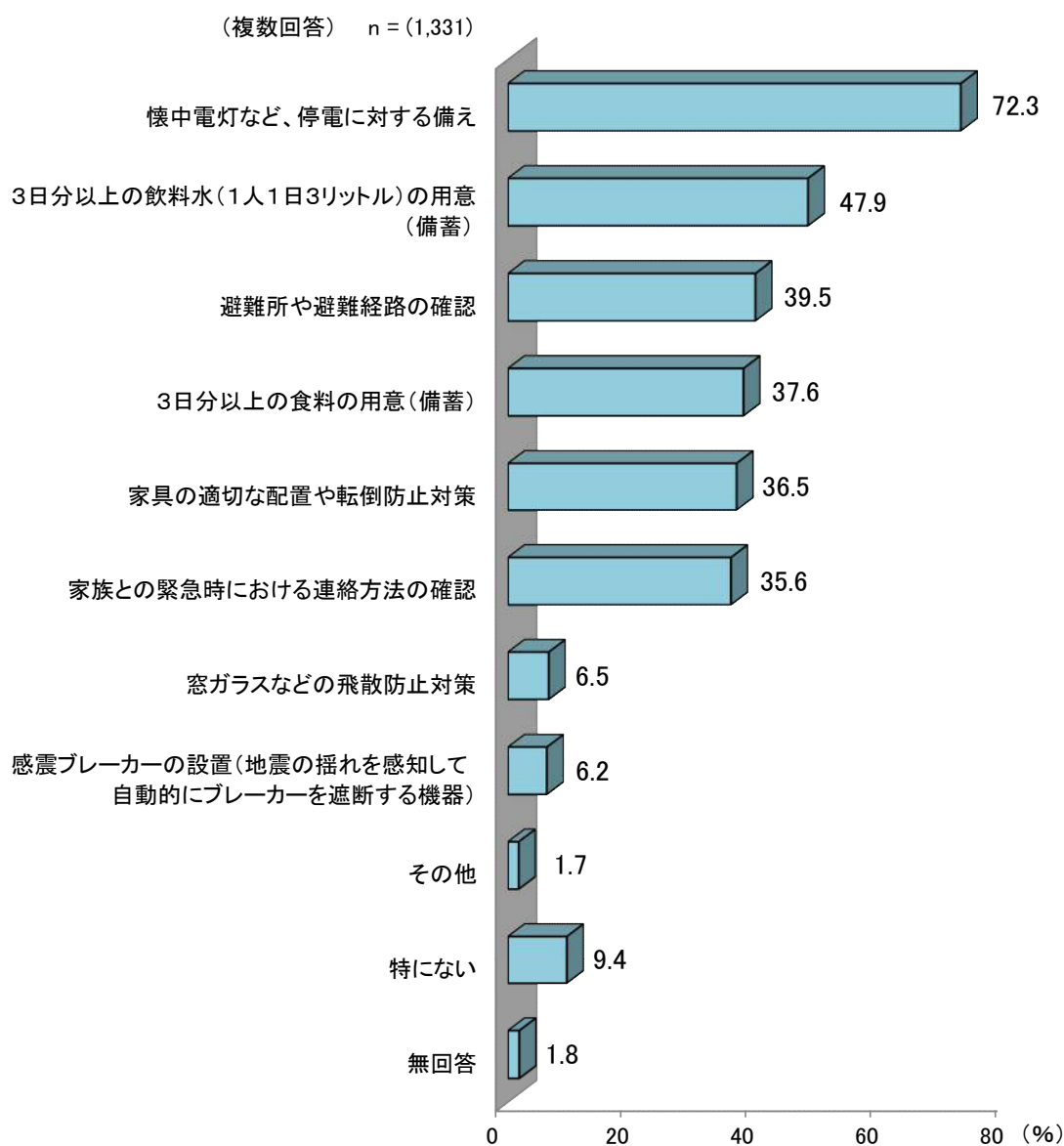


4 市民の防災意識について

1 大地震などの大規模な災害に備えて家庭内で行っている取組

大規模な災害に備えて、家庭内で行っている取組について聞いた。「懐中電灯など、停電に対する備え」(72.3%)が約7割と最も高く、次いで「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)の用意(備蓄)」(47.9%)、「避難所や避難経路の確認」(39.5%)となっている。

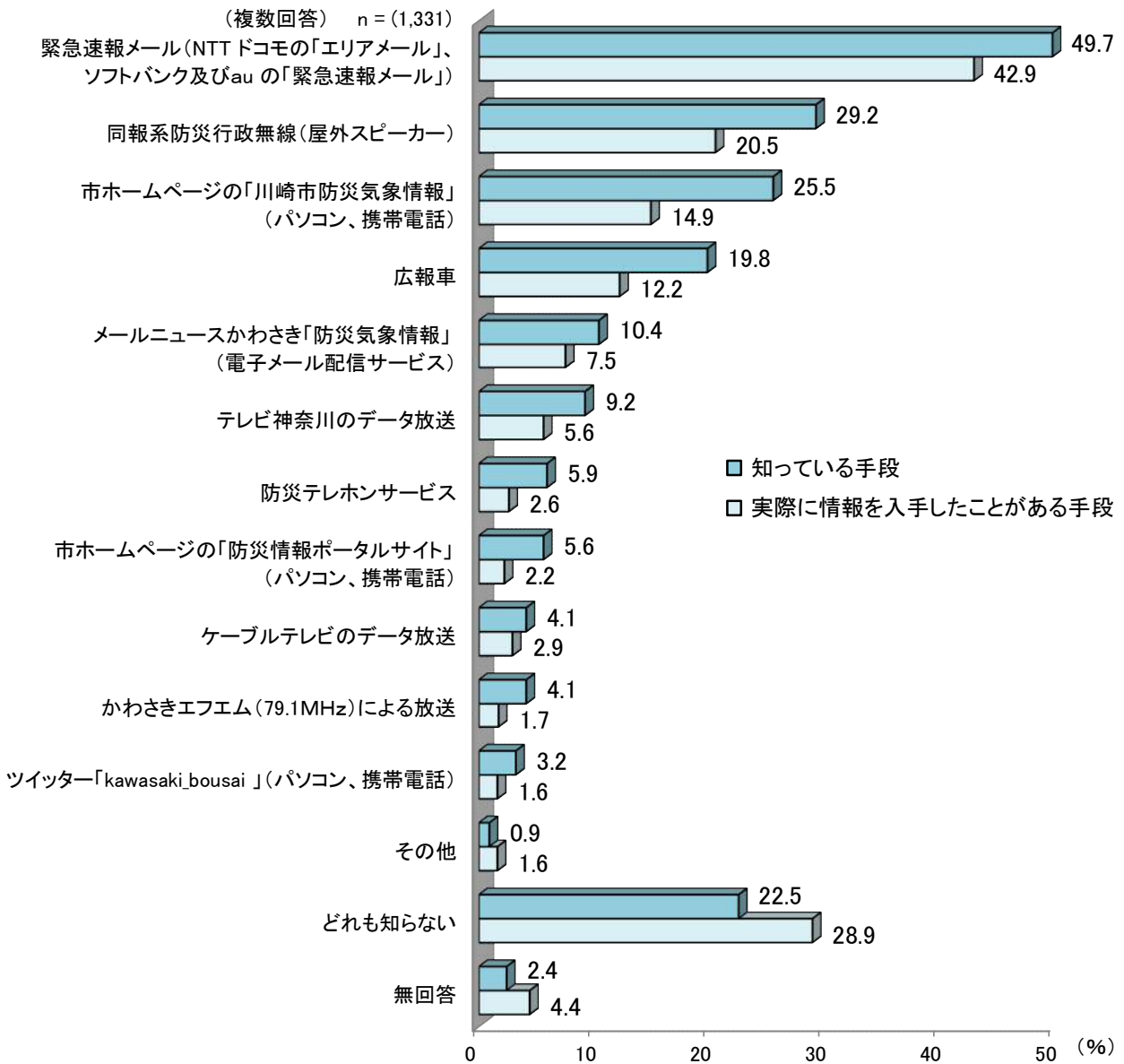
図9



2 災害に関する情報提供手段の認知度等

災害に関する情報を提供している手段の認知度等について聞いた。「緊急速報メール(NTTドコモの「エリアメール」、ソフトバンク及びauの「緊急速報メール」)」(49.7%)が最も高く、次いで「同報系防災行政無線(屋外スピーカー)」(29.2%)、「市ホームページの「川崎市防災気象情報」(パソコン、携帯電話)」(25.5%)となっている。

図 10



平成27年度第1回かわさき市民アンケート概要版

平成27年11月

発行 川崎市総合企画局自治推進部

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2168 (直通)

FAX 044-200-3800